

震災時に求められる、 介護福祉支援とレクリエーションとは？

新潟医療福祉大学 准教授 岡田 史さん

「災害時における要援護者の避難及び生活支援」を研究されている、岡田さん。

阪神大震災、中越地震での活動経験やノウハウをまとめた「災害時における

介護福祉支援ボランティア・マニュアル」の作成に携われるなど、震災介護のエキスパートです。

今回の東日本大震災においても、現場に入り活動された岡田さんに、

震災時に求められる介護福祉とレクリエーション支援について、お話をうかがいました。



「点々アート」を楽しむ、利用者の皆さん。

大切なのは、生活の立ち直りレベルに
合わせたレク。

震災後、福祉避難所となった宮城県は仙台市泉区の「泉社会福祉センター」で、介護支援活動を行った岡田さん。福祉避難所での生活の様子や、ボランティアの活動状況とともに、支援のためのレクリエーションの役割について教えていただきました。

「震災時は時間の経過とともに、緊急支援から長期支援に切り替わっていきます。介護支援も緊急時介護から、生活を再建する介護へと変化するんです。福祉避難所は施設などに設置される場合と、避難所となっている体育館などに設置される場合があり、それぞれで避難されている要援護者の状態に応じて支援をしています。日頃から福祉

避難所としての機能を果たすように準備していたこちらの施設では、震災発生後、『福祉避難所』を早々に設置し、被災された高齢者の方たちを受け入れていました。こちらに避難していた方たちは、最初の避難所の環境が劣悪で、少しでも介護の環境が整ったところで生活したほうが良いという、家族やまわりの人たちの勧めで2次避難してきた方がほとんどです。『家族や親類と離れるより、避難所に一緒にいたほうが良いと思ったけれど、床の上に毛布1枚で、足を伸ばして寝ることもできなかったの、ここに来て良かった』とおっしゃる方もいましたね」

